

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02296

研究課題名（和文）17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Research on the Formation of Japanese Collections Abroad from the 17th to 19th Centuries

研究代表者

日高 薫 (Hidaka, Kaori)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：80230944

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、19世紀の在外日本関係資料の具体的な事例の調査をおこない、日本コレクションが形成されていく国内外の状況や、受容の状況について検討した。

具体的には、ドイツを中心に各地に散在するフィリップ・フランツ・シーボルトおよび彼の息子たち（アレクサンダーとハインリッヒ）の収集資料の調査を中心に、ベルツ・コレクション染織品調査、スイスやイギリス所在の日本美術調査などをおこなうと同時に関連する文献資料を収集した。さらにこれらを可能な限りアーカイブ化し、また展示等に活用することによって、後世の研究者の利用に供するばかりでなく、広く市民に還元し教育に資することを目標とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来ジャポニズムや博覧会研究の範疇でおこなわれてきた19世紀の日本コレクションの歴史的意義を再考するところに特色がある。とくに、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトが構築した日本展示や、彼の次男ハインリッヒ・フォン・シーボルトの自邸におけるコレクション展示等に関わる資料を発見し、現代の展覧会の中で復元的に提示することによって、研究者のみならず一般市民の高い関心を集めた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we investigated specific examples of Japanese-related materials from the 19th century abroad, and examined the domestic and international circumstances that led to the formation of Japanese collections and the conditions of their reception.

Specifically, we investigated the collections of Philipp Franz von Siebold and his sons (Alexander and Heinrich), which were scattered around Germany, the Belz Collection of textiles, and Japanese art in Switzerland and England, as well as collecting related documents. Furthermore, by archiving as much of this material as possible and utilizing it in exhibitions, etc., we aimed not only to make it available to future generations of researchers, but also to give it back to the public and contribute to education.

研究分野：美術史

キーワード：シーボルト 対外交流 ハインリッヒ・フォン・シーボルト アレクサンダー・フォン・シーボルト
コレクション 万国博覧会 お雇い外国人 ベルツ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパをはじめ海外には、近世から近代にかけての時期、外国人によって収集された膨大な日本関係資料が存在するが、その多くは未だ十分な調査研究がなされないまま、整理・修復・活用の機会を待っている。これらの中には数量的に大規模なものが多く、国内では失われてしまったようなものをしばしば含むこと、また収集された時期がある程度明確な基準資料に恵まれていることなどから、極めて有用な歴史資源として近年とくに調査の必要性が訴えられている。

研究代表者を中心とする研究組織は、これまで、在外日本コレクションに関わる複数のプロジェクトに携わり、多くの成果をあげてきた。

第一は、ジャポニスム(19世紀末)以前の西洋における日本文化受容を、漆器・磁器・染織品などの交易品を中心にとらえる研究である。16世紀以降の飛躍的な国際貿易市場の拡大、さらにはヨーロッパ諸国における啓蒙思想の広がりを背景として、広範な地域に輸出された日本の美術工芸品は、ヨーロッパとその周辺域を席捲した東洋趣味(「China Mode(独)」、「Le gout chinois(仏)」などの呼称がある)の一環として受容され、各地でコレクションを形成した。研究チームは、科学研究費補助金・基盤研究(B)「シノワズリの中の日本 17~19世紀の西洋における日本文化受容と中国」(平成21~24年度)、基盤研究(B)「東西貿易と東洋趣味コレクション 17~19世紀の日本美術コレクションが担った役割」(平成25~28年度・ともに研究代表者・日高薫)などによる研究によって、ヨーロッパ主要各国の現地調査をほぼ終了し、従来まとまった研究がおこなわれてこなかった当該分野の資料の伝世状況を新たに明らかにし、各々のコレクションの歴史的背景や、建築空間内でのディスプレイ、贈答といった受容の容態、西洋の装飾美術に与えた影響(シノワズリのデザインなど)や、社会的機能についても検討を加え、多くの新知見を得ることができた。

第二に、人間文化研究機構(国立歴史民俗博物館)が推進したプロジェクト(人間文化研究機構・日本関連在外資料調査研究事業・研究課題A「シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代(19世紀)に日本で収集された資料についての基本的調査研究」)においては、ドイツ人医師フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトや商館長ヤン・コック・プロムホフ、オーフェルメール・フィッセルなど19世紀前半から半ばにかけての日本滞在外国人によるコレクションの調査をすすめ、とくにミュンヘン五大陸博物館が所蔵する総点数6000点を超えるシーボルト・コレクションの悉皆調査を完了し、全点画像付データベースとして一般公開した。さらに、コレクションの「もの資料」と、複数言語(日・独・蘭)による文献資料との照合によって、シーボルト自身が1832年から1866年にかけてオランダとドイツの4都市において開催した日本展示の内容を初めて明らかにし、復元的に展示する展覧会(「よみがえれ! シーボルトの日本博物館」展、現在全国5会場を巡回中)を開催した。

第三に、平成28年度からは、対象とする時代を主として19世紀後半に移した新たなプロジェクト(人間文化研究機構・ネットワーク型基幹研究プロジェクト「日本関連在外資料調査研究・活用「ヨーロッパにおける19世紀日本関連資料の調査と・活用 - 日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築にむけて - 」)に着手し、日本関連資料の総合的調査に加えて、それらの展示・教育方面における活用支援や、研究者や研究機関の連携による共有化の仕組み作りにも力を注いでいる。

このように、18世紀以前と、19世紀前半から半ば、そして19世紀後半における日本コレクションの実地踏査と歴史的考察を進めてきた過程で本研究の着想が生まれている。19世紀は、江戸時代から明治時代への大きな転換期であり、多くの日本美術・日本資料が流出した時期であるが、世界情勢の変化と連動して異文化資料の収集目的や方法、コレクションの性格や機能にも新しい展開がみられるようになり、近代的な学問や博物館・美術館が形を整えてきた時代にもあたる。

そこで本研究では、上記の第三にあげた平成28年度から進行中のプロジェクトと連動しつつ、第一であげた早い時期の日本コレクションに関する研究成果を活かして、19世紀のコレクション研究に新たな理論的裏付けを与える基礎的な研究をおこないたいと考えた。

2. 研究の目的

17世紀以降のヨーロッパで形成された日本コレクションは、未知の世界である東方へ向けた眼差しを反映する異文化コレクションのひとつと位置づけられるが、その歴史的展開は未だ全体的には把握されていない。本研究では、王侯貴族による啓蒙主義的な性格のコレクションから近代的なコレクションへの変化が認められる19世紀の状況にとくに注目し、具体的な事例の比較検討を通じて、各時代における日本コレクション形成の動向をたどる。博覧会や博物館展示との関連、貿易や産業振興といった実利的な側面にも留意しつつ、ジャポニスム前夜の日本美術受容の実態を解明し、海外における異文化コレクションをめぐる文化の総体的理解の一助とした

い。

人間文化研究機構のプロジェクトによる関連研究では、ウィーン世界博物館所蔵のハインリッヒ・フォン・シーボルトのコレクションの総合的調査を中心に、シーボルトの二人の息子、アレクサンダーとハインリッヒに関する「もの資料」および文献資料の調査を進める予定であるため、本研究においては、ハインリッヒ・コレクションの比較材料となるいくつかの代表的なコレクションの調査をおこない、ケーススタディとする。主要な研究内容は以下の通りである。

お雇い外国人のコレクション

ハインリッヒ・フォン・シーボルトと同時代のコレクション（エドワード・S・モース、エルヴィン・フォン・ベルツなど）の概要を把握し、比較検討の材料とする。

ウィーン万国博覧会（1873）の購入品と各地の日本コレクションの形成

万国博覧会出品購入品の所在を確認し、19世紀後半のコレクション形成に万国博覧会が果たした役割について、具体的な事例に基づいて考察する（購入品の傾向・分布など）。

コレクションの展示と博物館の設立

万国博覧会における日本展示、その他日本コレクションの展示風景など、19世紀ヨーロッパにおける日本資料の展示に関わる資料（文献・写真）を収集し、利用しやすい状態に整理するとともに、目録等を通じたそれらの展示の復元的考察をおこなう。また、19世紀ヨーロッパにおける工芸博物館や民族学博物館の相次ぐ設立と、それに関連した日本コレクションの収集に関する検討をおこない、実際の収集資料の実態調査を進める。

貿易・産業と日本コレクション

スイスの絹織物産業と日本製糸業に関する文献資料の翻刻・翻訳（ルツェルン大学と共同）、横浜貿易関係資料や起立工商社など日本国内の資料の収集と整理をおこなう。

3. 研究の方法

本研究グループでは、具体的なコレクションの実地調査を異なる専門分野の研究者が共同でおこなうことを基本方針としてきた。複数の専門家がコレクションを多角的にとらえることにより、個人研究では見落としがちな全体像が見えてくるからである。ヨーロッパに所蔵される資料の調査・撮影・情報収集を行うことを前提とし、各年度1～2回の海外調査を研究計画の中核とする。

このほか調査に関連した報告や意見交換の場として、研究分担者・連携研究者・研究協力者やゲスト・スピーカーが各専門領域からの報告をおこなう研究会を開催し、議論を深める場としたい。また、調査対象の資料以外にも広く関連資料を収集・蓄積し、利用しやすいかたちに整理する作業を随時すすめる。

研究組織については、組織表の研究分担者の他、以下に記す連携研究者、研究協力者を加えた。役割分担に示したように、17世紀以来の西洋の東洋趣味コレクションの中で、日本の工芸品とともに重要な役割を演じた中国の輸出品の制作・流通や、アジア内での交流にも目配りしつつ研究を進めたい。また、ドイツ語等による文献資料の研究を美術資料の調査と並行してすすめ、全体像をとらえていく。

【研究組織の役割分担】

日高 薫（研究代表者） 総括および漆工（日本および中国）

荒川正明（研究協力者） 陶磁器（日本および中国）

黒川廣子（研究協力者） 金工（日本および中国）

櫻庭美咲（研究分担者） 陶磁器（主として西洋での受容と文献資料分析）

澤田和人（研究分担者） 染織品

大久保純一（研究分担者） 浮世絵およびその他の絵画

佐々木守俊（研究協力者） 仏教彫刻

山崎幸治（研究協力者） アイヌ関係

福岡万里子（研究分担者） 対外交渉史（文献資料分析）

堅田智子（研究協力者） 対外交渉史（文献資料分析）

島津美子（研究分担者） 文化財科学（材質等の分析）

なお、海外コレクションの調査に際しては、個人所蔵者や伝来等に関する詳細な情報に通じ、海外における最新の研究状況をふまえた意見交換ができる海外共同研究者を必要に応じて研究組織に加えた。

基盤となる人間文化研究機構の関連プロジェクトのメンバーであるヨハネス・ヴィーニンガー氏（オーストリア応用美術博物館）、脇田美央氏（オーストリア応用美術博物館）、ハンス・ピヤーネ・トムセン氏（チューリッヒ大学）、アレックス・シュヴァルツェンバッハ氏（ルツェルン大学）、ブルーノ・リヒツフェルト氏（ミュンヘン五大陸博物館）、ベッティーナ・ツォルン氏（ウィーン世界博物館）などのほか、フィリップ・スホメル氏（プラハ工芸大学）、ウタ・ヴェルリッヒ氏（リンデン民族学博物館、ミュンヘン五大陸博物館）らの協力を仰いだ。

4. 研究成果

(1) 海外コレクションの調査

ドイツを中心に各地に散在するシーボルトの息子たち（アレクサンダーとハインリッヒ）の収集資料の調査（ブランデンシュタイン＝ツェッペリン家、ヴェルツブルクシーボルト博物館、ヴェルツブルク市公文書館、ミュンヘン五大陸博物館、ウィーン世界博物館、ワイマール・クラシック財団、ニュルンベルクゲルマン国立博物館図書室）をおこない、あわせてコレクションに関連する文献資料を収集した。これらの調査成果の一部は国立歴史民俗博物館のデータベース上で公開した。

ウィーン世界博物館所蔵ハインリッヒ・フォン・シーボルト収集コレクション等の調査をおこない、その成果をもとに、ウィーン万国博覧会や日本古美術展等、ヨーロッパで開催された日本展示におけるシーボルト兄弟の役割について考察し、多くの新知見を得た。

ロイトリンゲン大学が所蔵するベルツ・コレクションの染織品の調査をおこなった。ピーボディ・エセックス博物館所蔵のモース・コレクション、ニューヨーク市立大学コーエン図書館のハリス関係資料、スミソニアン協会所蔵ペリー関係資料ほかアメリカ東海岸に所蔵される日本関係資料の調査をおこなった。

英国グラスゴー博物館機構等所蔵の日本関係資料の調査をおこない、同館が準備を進めているカタログ作成のための基礎データ提供に協力した。

(2) 文献資料の検討

シーボルトがミュンヘンで構築した日本博物館の概要を記した史料を翻刻・翻訳し、『シーボルト日本博物館の概要と解説 欧文原本・翻刻・翻訳』を刊行した。

ルツェルン応用科学芸術大学との連携により、スイス絹織物産業関係資料（シーベル・ブレンワルト社の共同経営者であったシーベル兄弟の書翰、総計約 300 通）の翻刻作業を進め、これらの資料に基づく研究をおこなった。

(3) 研究成果の発信

シーボルト収集資料の調査研究に基づく成果報告書『シーボルトコレクションから考える』（2018 年、国立歴史民俗博物館）を刊行した。

ミュンヘン五大陸博物館における展示「Collecting Japan. Philipp Franz von Siebolds Vision vom Fernen Osten（日本を集める シーボルトが紹介した遠い東の国）」（2019 年 10 月 11 日～2020 年 9 月 13 日）を同館と共催。

フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトのコレクション目録（ミュンヘン五大陸博物館所蔵）に基づいて、彼がミュンヘンで開催した日本展示を再現した。また、彼がアムステルダムでおこなった日本コレクションの展覧会におけるハイライト展示を撮影した古写真（ブランデンシュタイン城所蔵）の新規発見に基づき、同展示場面を再現した動画を作成して展示した。

ウィーン世界博物館における展示「Japan zur Meiji-Zeit. Die Sammlung Heinrich von Siebold（明治の日本 ハインリッヒ・フォン・シーボルトの収集品から）」（2020 年 2 月 13 日～2020 年 8 月 11 日）を同館と共催。

ここでは、シーボルトの末裔家ブランデンシュタイン城所蔵資料の中から発見した、ハインリッヒ収集資料の展示風景を撮影した 4 枚の古写真をもとに、19 世紀における日本資料の分類・把握や展示のあり方を復元的に提示した。

ジュネーブ市立アリアナ美術館において「Chrysanthèmes, dragons et samourais. La céramique japonaise du Musée Ariana（菊・龍・サムライ アリアナ美術館所蔵の日本陶磁）展（2020 年 12 月 11 日～2022 年 1 月 9 日）を同館およびチューリッヒ大学と共催した。

19 世紀における日本関連資料収集の歴史的展開と意義、活用の諸問題について、国内外の研究者が意見を交換する国際シンポジウム「異文化を伝えた人々 19 世紀在外日本コレクション研究の現在」を開催した（2017 年 10 月 28・29 日、於国立西洋美術館講堂、同時通訳付）。

オンライン国際シンポジウム「Exhibiting “Japan” Overseas 海外で《日本》を展示すること - 海外のコンテクストと日本のコンテクスト」（2021 年 3 月 29 日）、「スイスに伝えられた日本陶磁」（2022 年 1 月 6 日）、「新しいシーボルト研究への誘い シーボルト（父）関連資料の基礎的な調査・研究・活用事業で考えたこと」（2022 年 1 月 15 日）、「ハインリッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察 More Insights into the Heinrich von Siebold Collection」（2022 年 3 月 14 日）を開催した。

『異文化を伝えた人々 19 世紀在外日本コレクション研究の現在』（2019 年、臨川書店、上記の国際シンポジウム報告書）『異文化を伝えた人々 ハインリッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料』（2021 年、臨川書店）『異文化を伝えた人々 シーボルトの日本博物館』（2022 年、臨川書店）を刊行した。

ミュンヘン五大陸博物館、ブランデンシュタイン＝ツェッペリン家等における調査研究による最新の研究成果をまとめた論文集『Philipp Franz von Siebold(1796-1866) Sammler und Japanforscher』(AKAMEDON・2022)をドイツで刊行した。

(4) まとめと今後の課題

本研究は、人間文化研究機構によるプロジェクトと連携しつつ、在外の日本関係資料(美術品を含む「もの資料」および文献資料)の調査およびアーカイブ化、そしてそれらの展示や教育の場における活用を進めるとともに、19世紀における日本コレクションの生成環境や受容状況に注目し、異文化交流に「もの」が果たした役割について多視点的考察を加えた。とくに、日本資料が海を渡って西洋に移動するに至った経緯や、移動した日本資料が現地でのどのような役割を果たしたかについて、具体的な事例に則して検討し、多くの新知見を得ることができた。

まず、本研究は、多くの蓄積のあるシーボルト研究に、新たな研究視点を与え得たと考えている。それは、博物館理論家、そして実践家としてのシーボルトの功績に対する評価である。そのアウトラインは、すでに石山禎一著『シーボルトの日本研究』(吉川弘文館、1997年)によって明確に示されており、本プロジェクトのオリジナルというわけではない。本研究チームの研究成果は、石山氏の著書の内容をもとに、文献資料(アレクサンダー・フォン・シーボルトによって作成された同時代のコレクション目録)と現存する「もの資料」(ミュンヘン五大陸博物館所蔵シーボルト・コレクション)との丁寧な照合により、シーボルトが構想した「日本博物館」の復元的考察へと発展させたところにある。この復元作業は、シーボルトの末裔家の資料の中から発見された古写真(シーボルトが同コレクションをアムステルダム産業振興会館において展示した際の記録写真)によって補強された。

次に、上記の方法をシーボルトの次男ハインリッヒの収集資料(ウィーン世界博物館所蔵)についても適用し、同じくシーボルト末裔家から発見した4枚の古写真および文献資料をもとに、ハインリッヒによる展示の復元もおこなった。これらの研究により、19世紀における民族学博物館における異文化コレクションの分類や展示の手法の具体相をとらえることができた。

コレクション調査の進展と、関係する文献資料等に基づく考察によって、父親であるフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトによるコレクションと、ハインリッヒ・フォン・シーボルトあるいはアレクサンダー・フォン・シーボルトのコレクションとのあいだにある差異もおぼろげながら明らかとなった。「日本博物館」建設という壮大な意図によって収集された父親のコレクションに対し、息子たちのコレクションは大枠では類似するものの、網羅性や個々の資料の質のうえで劣ると見做されがちであった。しかし、コレクションの生成過程や収集目的が父親のものとは根本的に異なっていたことがわかってきた。息子たちの日本資料収集の目的のひとつは、当時黎明期にあったヨーロッパの博物館や美術館に資料を提供することであり、また日本資料はヨーロッパ各都市と日本との外交的関係構築のために重要な役割を演じることもあった。彼らのコレクションが、ドイツを中心に各国に点在しているのは、そうした彼らの収集姿勢の結果ともいえるのである。

新型コロナウイルス感染拡大のため、計画した調査やシンポジウムが実施できず、研究が大幅に遅延した。展示やオンライン・シンポジウムの開催、論文集の刊行は何とか進めることができたが、後半2年間、海外調査を全く実施できなかったことにより、博覧会関係資料のその後の動向や、博物館設立に際する資料収集について十分な考察がおこなえず、所期の目的を遂げることはできなかった。これらは今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 日高薫	4. 巻
2. 論文標題 シーボルト兄弟による日本コレクションの形成と拡散 蜷川式胤との関係を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 41-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田和人	4. 巻
2. 論文標題 ハイน์リッヒ・コレクションの木綿製品に見る近代化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 123-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ベッティーナ・ツォルン	4. 巻
2. 論文標題 オーストリア帝立=王立自然史博物館の日本ギャラリーにあった展示ケース	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 245-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ヨハネス・ヴィーニンガー	4. 巻
2. 論文標題 ウィーン応用美術博物館所蔵のハイน์リッヒ・フォン・シーボルトによるコレクション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ヨハネス・ヴィーニンガー	4. 巻
2. 論文標題 『日本の工芸美術展』：ハインリッヒ・フォン・シーボルトによる 1883 年の展示目録からの抜粋	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハインリッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 69-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堅田 智子	4. 巻
2. 論文標題 シーボルト兄弟にとってのウィーン 日独澳関係史、広報文化外交史の交点として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハインリッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 9-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 守俊	4. 巻
2. 論文標題 ウィーン世界博物館の阿弥陀三尊像について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハインリッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 107-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎 幸治	4. 巻
2. 論文標題 シーボルト父子のアイヌ・コレクションの比較と現代的意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハインリッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 137-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脇田 美央	4. 巻
2. 論文標題 ハインリッヒ・フォン・シーボルト寄贈の茶入が語るもの：シーボルト、蜷川式胤と 1870 年代半ばのウィーンにおける日本の茶陶	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 ハインリッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡 万里子, 日高 薫, 澤田和人	4. 巻 228
2. 論文標題 スミソニアン研究機構所蔵の幕末日本関係コレクション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 101-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳正俊	4. 巻 228
2. 論文標題 大阪通商司と「外庄」の実相－新潟との比較的观点から－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 473-499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日高薫	4. 巻 -
2. 論文標題 記憶と幻想 17世紀の日本製輸出漆器にみる風景表現	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 7世紀オランダ美術と アジア	6. 最初と最後の頁 163-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 オラニエ=ナッソウ家の磁器収集と陳列の諸相	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 7世紀オランダ美術と アジア	6. 最初と最後の頁 75-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日高薫	4. 巻 -
2. 論文標題 「異文化」を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の視座	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在	6. 最初と最後の頁 7-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 神聖ローマ帝国諸侯の磁器陳列室 シーボルト・コレクションとの関連をふまえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在	6. 最初と最後の頁 43-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 澤田和人	4. 巻 -
2. 論文標題 アメリカにおける日本の染織品に対する嗜好の変化 野村正治郎の販売活動を手掛かりとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在	6. 最初と最後の頁 178-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 日高薫	4. 巻 -
2. 論文標題 グローバルな視点でみた日本の漆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漆文化	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Hidaka, Bruno Richtsfeld	4. 巻 December 2017 / January 2018
2. 論文標題 Revisiting Siebold's Japan Museum in Munich: Research cooperation between the National Museum of Japanese History (Sakura, Chiba Prefecture, Japan) and the "Museum Five Continents"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ExpoTime!	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 日高薫	4. 巻 -
2. 論文標題 シーボルト・コレクションから考える 開催趣旨	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館編『シーボルト・コレクションから考える』	6. 最初と最後の頁 21-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 陶磁史から考えるミュンヘンのシーボルト・コレクション	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館編『シーボルト・コレクションから考える』	6. 最初と最後の頁 77-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大久保純一	4. 巻 -
2. 論文標題 シーボルト収集絵画に見るリアリズム 花鳥画と名所絵を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館編『シーボルト・コレクションから考える』	6. 最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日高薫	4. 巻 -
2. 論文標題 シーボルトの日本博物館を復元する 国立歴史民俗博物館による巡回展示の意図するもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館編『シーボルト・コレクションから考える』	6. 最初と最後の頁 101-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日高薫・平田由紀	4. 巻 -
2. 論文標題 アムステルダムにおけるシーボルトの第二次コレクション展示について 新出の古写真にもとづく考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館編『シーボルト・コレクションから考える』	6. 最初と最後の頁 137-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日高薫	4. 巻 830
2. 論文標題 口絵解説 グスタフ 世肖像図蒔絵ブラケット	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡万里子	4. 巻 -
2. 論文標題 解題 シーボルト日本博物館の概要と解説：欧文原本・翻刻・翻訳	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館編『シーボルト日本博物館の概要と解説 欧文原本・翻刻・翻訳』	6. 最初と最後の頁 7-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 17件）

1. 発表者名 福岡万里子
2. 発表標題 初代米国駐日総領事ハリスのアジア諸港における外国人居留地人脈 珠江デルタ地帯・寧波・上海を中心に
3. 学会等名 東洋史研究会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuto Sawada
2. 発表標題 The Baelz Collection of Japan Textiles at Reutlingen University - Outline, Special Features, and Significance
3. 学会等名 Historische Gewebe in einer digitalen Welt（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福岡万里子
2. 発表標題 米使ハリスの1856年対シャム条約交渉 - 日本開国史との相違と接点を探る
3. 学会等名 歴博基盤研究「近世近代転換期東アジア国際関係史の再検討 - 日本・中国・シャムの相互比較から」成果論集準備研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日高薫
2. 発表標題 特産品としての漆器の輸出
3. 学会等名 ブダペスト日本文化センター講義・演習企画「Az Edo-kor nyomaban (江戸時代探求)」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ハンス・ビャーネ・トムセン
2. 発表標題 西洋における日本美術とその展示
3. 学会等名 国際シンポジウム「海外で《日本》を展示すること：海外のコンテキストと日本のコンテキスト」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福岡 万里子
2. 発表標題 万延元(1860)年遣米使節団が見せたかった「日本」
3. 学会等名 国際シンポジウム「海外で《日本》を展示すること：海外のコンテキストと日本のコンテキスト」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ベッティーナ・ツォルン
2. 発表標題 フランツ・ヘーガーの日記から 1885年エルパッハ
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「ハインリッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎 幸治
2. 発表標題 交差する記録 ハイน์リッヒの北海道調査を中心に
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日高 薫
2. 発表標題 明治の調べ ハイน์リッヒ収集の楽器
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 シビル・ギルモンド
2. 発表標題 ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトの「日本・中国展覧会」 ヴェルツブルク、1896/97年
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堅田 智子
2. 発表標題 コメント 「さらなる洞察」を深めるために シーボルト兄弟の日本コレクションのこれから
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ステファン・ケック
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「ハインリッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日高薫
2. 発表標題 国際連携による在外資料調査とその活用
3. 学会等名 第3回 東アジア日本研究者協議会国際学術大会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福岡万里子
2. 発表標題 International Race toward Japan's Opening?: Harris' Rivalry with the European Powers, 1858-61.
3. 学会等名 ニューヨーク市立大学コーエン図書館公開講演(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福岡万里子
2. 発表標題 シーボルトの日本博物館 - 最後の構想をめぐる謎解き
3. 学会等名 ネットワーク型基幹研究プロジェクト 日本関連在外資料調査研究・活用事業国際シンポジウム「国際海洋都市平戸と異文化へのあこがれ 在外資料が変える日本研究」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日高薫
2. 発表標題 南蛮漆器の技術とデザイン～海外の眼から《漆》を見直す～
3. 学会等名 平成30年度 製造技術高度化研究会 加飾技術講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Fukuoka
2. 発表標題 Casper Brennwald: Trading Activities of a Swiss Merchant in 1860s in Japan and Europe
3. 学会等名 “ Documenting Westerners in Nineteenth-Century China & Japan: New Sources and Perspectives, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures in Norwich（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田和人
2. 発表標題 シーボルト・コレクションの長崎くんち衣裳
3. 学会等名 第30回人文機構シンポジウム「海の向こうの日本文化 その価値と活用を考える」 / 九州大学西新プラザ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日高薫
2. 発表標題 異文化を伝えた人々 開催趣旨
3. 学会等名 国際シンポジウム「異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在」 / 国立西洋美術館（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻庭美咲
2. 発表標題 磁器陳列室をめぐる神聖ローマ帝国諸侯の競合と日本磁器
3. 学会等名 国際シンポジウム「異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在」/ 国立西洋美術館（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田和人
2. 発表標題 アメリカにおける日本の染織品に対する嗜好の変化 野村正治郎の販売活動を手掛かりとして
3. 学会等名 国際シンポジウム「異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在」/ 国立西洋美術館（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 Kaori Hidaka , Bettina Zorn	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Weltmuseum Wien	5. 総ページ数 272
3. 書名 Japan zur Meiji-Zeit. Die Sammlung Heinrich von Siebold	

1. 著者名 日高薫 , ベッティーナ・ツォルン	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 311
3. 書名 異文化を伝えた人々 ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料	

1. 著者名 Bruno J. Richtsfeld	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Museum Fuenf Kontinente	5. 総ページ数 88
3. 書名 Collecting Japan. Philipp Franz von Siebolds Vision vom Fernen Osten	

1. 著者名 Bruno J. Richtsfeld	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Museum Fuenf Kontinente	5. 総ページ数 88
3. 書名 Collecting Japan. Philipp Franz von Siebold's Vision of the Far East	

1. 著者名 青柳正俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 40
3. 書名 日本を集める シーボルトが紹介した遠い東の国	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館、日高薫編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 386
3. 書名 異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 281
3. 書名 シーボルト・コレクションから考える	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 188
3. 書名 シーボルト日本博物館の概要と解説 欧文原本・翻刻・翻訳	

1. 著者名 Ana Quintero Perez 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Editions Georg	5. 総ページ数 465
3. 書名 Chrysanthemes, dragons et samourais. La ceramique japonaise du Musee Ariana	

1. 著者名 ブルーノ・J・リヒツフェルト、ウド・バイライス、日高 薫、ヴェルツブルク シーボルト博物館、人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 162
3. 書名 異文化を伝えた人々 シーボルトの日本博物館	

1. 著者名 Hans-Bjarne Thomsen, Kaori Hidaka, Bruno J. Richtsfeld, Andreas Hirner, Udo Beireis, Andreas Mettenleiter	4. 発行年 2023年
2. 出版社 AKAMEDON	5. 総ページ数 199
3. 書名 Philipp Franz von Siebold(1796-1866) Sammler und Japanforscher	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ヨーロッパにおける19世紀日本関係資料調査研究・活用 http://e-zaigai.jp シーボルト父子関係資料データベース https://www.rekihaku.ac.jp/up/cgi/login.pl?p=param/pfvs/db_param シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代に日本で収集された資料についての 基本的調査研究 https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/2010/siebold/index-j.html ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 http://e-zaigai.jp/ シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代に日本で収集された資料についての基本的調査研究 https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/2010/siebold/index-j.html シーボルト父子関係資料データベース https://www.rekihaku.ac.jp/up/cgi/login.pl?p=param/pfvs/db_param ヨーロッパにおける19世紀日本関係資料調査研究・活用 http://e-zaigai.jp シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代に日本で収集された資料についての 基本的調査研究 https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/2010/siebold/index-j.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	島津 美子 (Simadzu Yoshiko) (10523756)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	青柳 正俊 (Aoyagi Masatoshi) (10850018)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・研究員 (62501)	
研究分担者	福岡 万里子 (Fukuoka Mariko) (50740651)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	澤田 和人 (Sawada Kazuto) (80353374)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	大久保 純一 (Ohkubo Jun'ichi) (90176842)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	櫻庭 美咲 (Sakuraba Miki) (20425151)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・機関研究員 (62501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	荒川 正明 (Arakawa Masaaki)		
研究協力者	黒川 廣子 (Kurokawa Hiroko)		
研究協力者	佐々木 守俊 (Sasaki Moritoshi)		
研究協力者	山崎 幸治 (Yamasaki Koji)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	堅田 智子 (Katada Satoko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 人文機構シンポジウム「海外で日本を展示すること KIZUNA展からその意義を探る」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「海外で《日本》を展示すること：海外のコンテクストと日本のコンテクスト」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「ハインリッヒ・フォン・シーボルトのコレクション さらなる洞察 Neue Einblicke in die Heinrich von Siebold-Sammlung」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際シンポジウム「異文化を伝えた人々 19世紀在外日本コレクション研究の現在」	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストリア	ウィーン世界博物館	ウィーン応用美術博物館		
ドイツ	ミュンヘン五大陸博物館	シーボルト博物館	ロイトリンゲン大学	
スイス	チューリッヒ大学	ルツェルン応用科学芸術大学		
米国	ピーボディ・エセックス博物館			
オーストリア	ウィーン世界博物館	ウィーン応用美術博物館		
ドイツ	ミュンヘン五大陸博物館	シーボルト博物館	フランケン博物館	他1機関
スイス	チューリッヒ大学	ルツェルン応用科学芸術大学		
米国	ピーボディ・エセックス博物館			
英国	ウェールズ国立博物館	グラスゴー博物館機構	ダラム大学東洋美術館	他2機関
オーストリア	ウィーン世界博物館	ウィーン応用美術博物館		
ドイツ	ミュンヘン五大陸博物館	シーボルト博物館		

共同研究相手国	相手方研究機関			
スイス	チューリッヒ大学	ルツェルン応用科学芸術大学		
アメリカ	ピーボディ・エセックス博物館	スミソニアン研究機構		